

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

### \* 1983年6月11日のインドネシア日食の記念品発見

1983年6月11日にインドネシアで皆既日食があった。1983年10月号天文月報によると日本からは、地上班5グループ、気球班1グループの観測隊が派遣されており、内訳は東京天文台チーム4名(日江井栄二郎、清水保夫、宮崎英昭、今井英樹)がインドネシア Cepu でコロナの微細構造の観測、京都大学花山・飛騨天文台チーム3名(斎藤澄三郎、船越康宏、末松芳法)がインドネシア Tuban で彩層・コロナの分光観測と直接像観測、緯度観測所チーム2名(佐藤弘一、久慈清助)がインドネシア Mojokerto で接触時刻の観測、海上保安庁チーム2名(金沢輝雄、福島登志夫)が Tuban と Kragan で接触時刻観測、東北大学チーム3名(斉藤尚生、湯元清文、田村忠義)と東北工大チーム2名(瀬戸正弘、北村保夫)がインドネシアの Cepu と台湾中壢の2地点で地磁気脈動同時観測、気球班が東京天文台チーム2名(田鍋浩義、磯部琇三)、京都大学チーム2名(舞原俊憲、水谷耕平)、宇宙科学研究所チーム3名(秋山弘光、狛豊か、岡部選司)がインドネシア Watukosek から気球を上げて、Fコロナを観測している。

この日食観測の記念品(写真1)が発見された。この記念品がどのように配布されたか、あるいはどのように使用されたかは不明であるが、この観測隊の中心になった日江井さんをご健在なので聞いてみたい。筆者はこの頃在職していたがもらっていない。



写真1 記念品の表

記念品は南部鉄で出来ており、写真 1 で見るように表には、皆既日食時の太陽を中心にコロナが輝いている様子が描かれています。

GERHANA MATAHARI  
INDONESIA 1983. 6. 11  
日本日食観測隊

とある。また裏面（写真 2）には、

OBSERVATION  
OF SOLAR ECLIPSE  
JAPANESE TEAM  
CEPU MOJOKERTO  
TUBAN WATUKOSEK

とある。



写真 2 裏面には観測地が書かれている



写真 3 南部鉄を示す箱に入っていた